

第 5 章

耕作放棄に対するシカ・イノシシによる被害の影響

要 点

- ・ 鳥獣被害による耕作放棄の実態とシカとイノシシの被害との関係について集計した。
- ・ 耕作放棄地は、鳥獣被害以外の要因で進んでいる集落も多いが、耕作放棄が見られる集落の 20.6%が、鳥獣被害が耕作放棄の主な原因であると答えた。
- ・ 地域的には、阪神地域周辺では、耕作放棄も少なく鳥獣被害の影響も少ない傾向があったが、但馬、西播磨、丹波、淡路の各地域では、耕作放棄が進み、鳥獣被害の影響も大きかった。
- ・ シカ、イノシシの被害の大きい集落で、耕作放棄の進む傾向が顕著であった。

5-1. はじめに

鳥獣による農作物被害は、農業集落における営農意欲の低下や耕作放棄の増加などの要因となっており、地域の活力の減退に対する危惧は、年々大きくなっている。実際に過疎化・高齢化の進む地域においては、鳥獣被害は、被害面積や被害金額に集計されている経済的な影響以上に、住民の生活や農業集落の運営に影響を及ぼしている可能性がある。

本章では、兵庫県におけるシカ、イノシシの被害と耕作放棄との関係について、農業集落でのアンケート結果をもとに、その傾向を明らかにする。

5-2. 調査期間と方法

2006年と2007年の調査において、耕作放棄と鳥獣被害の関係について、以下の質問を行った。

耕作放棄に対する鳥獣害の影響
<input type="checkbox"/> 集落内に耕作放棄地はない
<input type="checkbox"/> 鳥獣害が多いことが耕作放棄の主な原因になっている
<input type="checkbox"/> 耕作放棄地はあるが、鳥獣害は主な理由ではない

この項目の回答から耕作放棄の地域性と野生動物被害の関係を検討した。

また、耕作放棄とシカおよびイノシシの被害との関係は、このデータと2章のそれぞれ

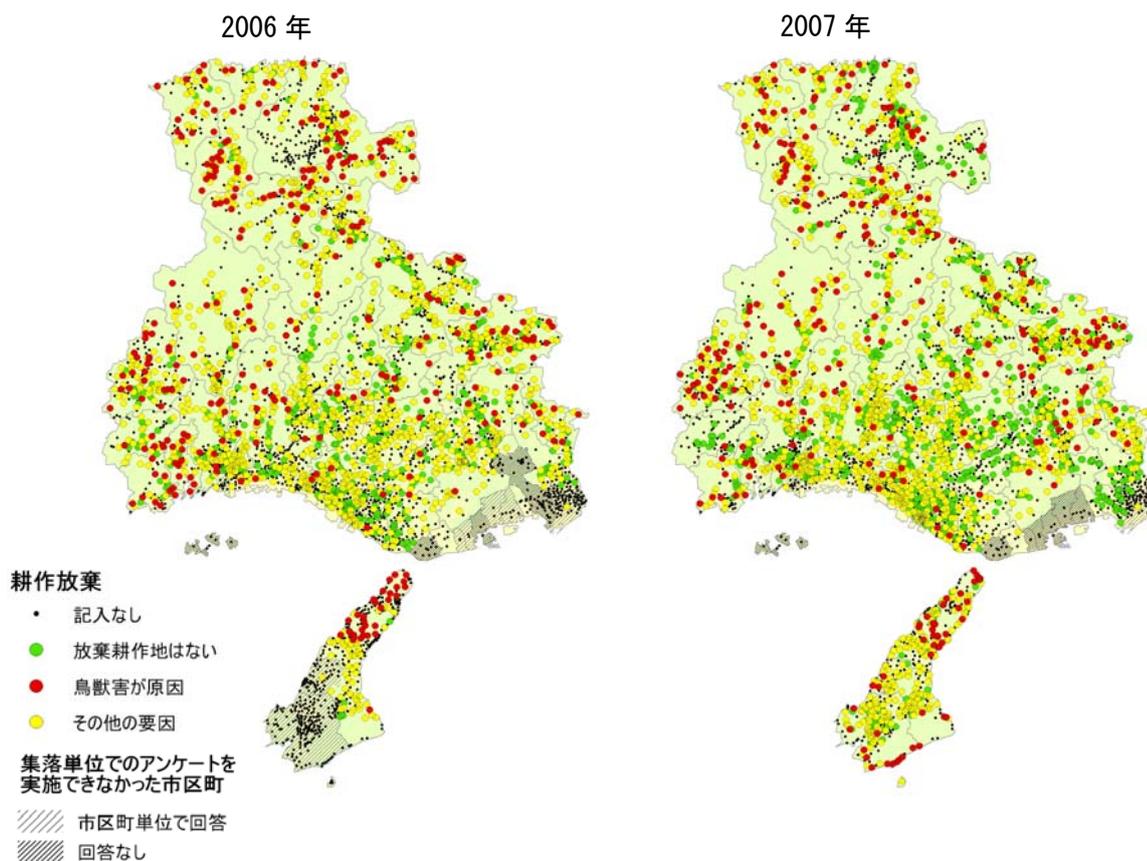
れの動物種による被害状況のデータとあわせて集計した。

5-3. 結果と考察

鳥獣被害が多いことが耕作放棄の主な原因になっていると回答した集落は、2回の調査の延べ数で 598 集落、耕作放棄はあるが鳥獣被害が主な理由でないと回答した集落は 2302 集落、耕作放棄地はないと回答した集落は 1093 集落であった。耕作放棄が見られる集落の 20.6%が、鳥獣被害が耕作放棄の主な原因になっていると答えていた。全体的には、鳥獣被害以外の理由で耕作放棄が進んでいる現状があるが、鳥獣被害も大きな要因になっている。

地域別に見ると、都市部に近い阪神地域の周辺は耕作放棄地がない集落も多く、鳥獣被害の影響も少ない。一方で但馬、西播磨、丹波、淡路の各地域では、耕作放棄が進んでおり、鳥獣被害が原因になっている集落も多い。(図 5-1)

図 5-1 耕作放棄地の分布状況



シカとイノシシの被害の状況と耕作放棄の関係を見ると、シカとイノシシのいずれの被害から見ても、被害が大きいほど耕作放棄が進んでいた。

図 5-2 シカ、イノシシの被害程度と耕作放棄理由との関係

数字は、2006 年と 2007 年の調査をあわせた回答集落数。

